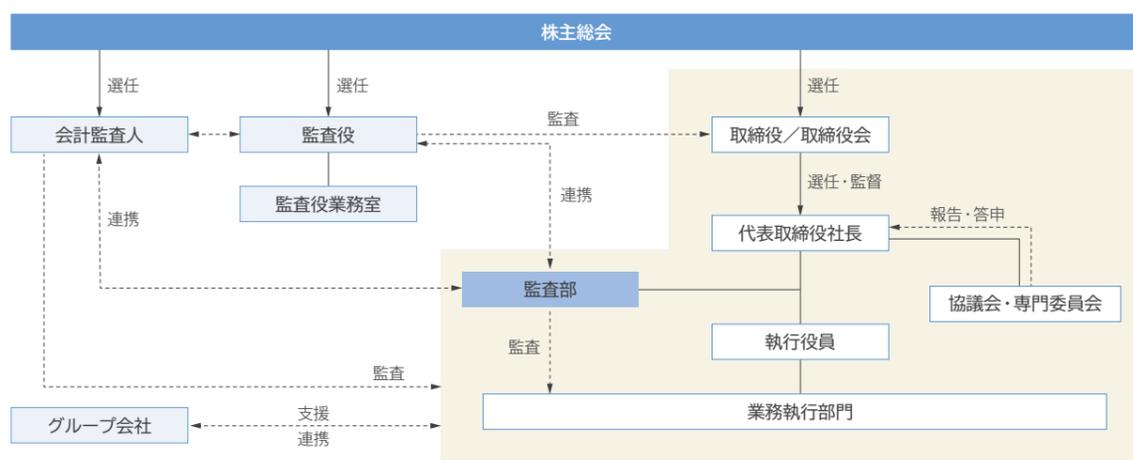


企業統治

大成ロテックでは、経営の効率性・透明性・健全性を高めるためにコーポレートガバナンス体制の充実・強化を図り、企業価値を向上させることを目指しています。

取締役会（社外取締役を含む）は、経営上の重要事項の決定と業務執行の監督を行います。監査役は、取締役会などの重要な会議への出席を通じて取締役の職務執行の適正性、健全性について監査を実施しています。また、執行役員制度を導入し業務執行の効率化・迅速化を図っています。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンスの推進

大成ロテックでは、「大成ロテック企業行動規範」を基本に「建設業法の遵守に関する行動基準」ほか各種規定を定め、コンプライアンスを推進してまいりましたが、一連の独占禁止法違反事件を受け、より一層の再発防止および法令遵守の体制を強化すべく、新たに「コンプライアンス推進室」を設置し、また実効性のある再発防止策の策定・実施を行うべく「コンプライアンス特別対策委員会」を設置しました。

法令を遵守し、また社会的要請にも応えるため、コンプライアンス推進体制を強化し、より一層社会に信頼される会社づくりを目指します。

具体的な取り組み

- 従業員一人ひとりに対してコンプライアンスの精神を徹底させるために、毎年、全国の事業所において全従業員参加のコンプライアンス研修を開催しています。ここでは、諸規定の解説だけでなく、独占禁止法、建設業法、入札・談合、廃棄物処理法からハラスメントなどの人権問題に至るまで、多岐にわたり具体的な問題を取り上げ、全社的なコンプライアンスの強化に努めています。
- 営業活動におけるコンプライアンス遵守状況の確認のため、社内規定「独占禁止法遵守のため行動指針」「入札業務の適正確認手続きに関する細則」に則り、毎年入札業務の監査を行っています。



eラーニング



コンプライアンス研修の様子

情報セキュリティ対策

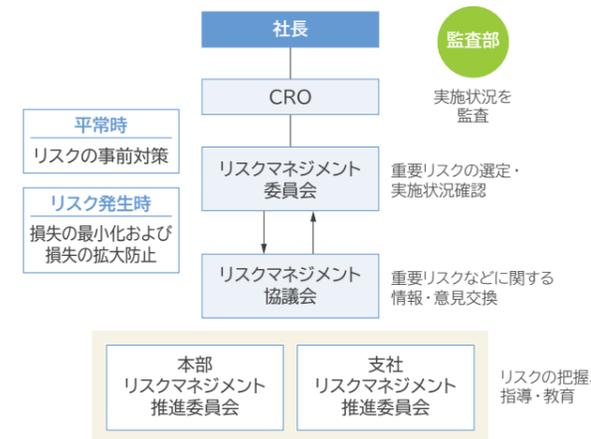
情報化社会は私たちの生活を便利にし、多種多様な利益をもたらしています。しかし利便をもたらした反面、サイバー攻撃やインターネットによるトラブルなど大きな危険性を抱えています。これらの脅威から会社の情報資産を守るために、情報部門の情報セキュリティレベルの向上、社員が遵守すべきことを定めた「情報セキュリティ管理規定」など、さまざまな情報セキュリティ対策を講じています。

- 個人によるTwitter、Facebookなどの情報発信メディアによるトラブルを防止する行動指針として「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を制定しています。

リスクマネジメント

会社の社会的信用を損なわせる可能性のある事象、会社に人的、物的若しくは経済的損失を発生させる可能性のある事象をリスクと定義し、各本部・支社において抽出されたリスクの中から、特に影響度や発生の可能性・頻度が高いリスクについては「全社重要リスク」として管理・周知を図り、適宜必要に応じて見直しを実施しています。各部門ではそのリスクについて日常的にモニタリングし、リスクコントロールがなされているかをチェックしており、また、監査部はリスクマネジメントの実施状況に関する監査を実施しています。それらを継続的に実施することにより、リスク発生の予防、リスク発生による損失の最小化、再発の防止およびリスク対策の評価と改善を行い、大成建設グループの一員として企業の社会的責任を果たしてまいります。

リスクマネジメント実施体制



マネジメントシステム

当社は現在3つのマネジメントシステムを社内でも運用しています。その内、社外からその活動が見えやすい労働安全衛生マネジメントシステムについてはCOHSMSに基づく自己宣言方式を採用して運用しています。また、実態が外から見えにくい品質管理システム、環境管理システムについては国際規格であるISO9001とISO14001に基づく外部の認証登録を受け、第三者から定期的にその運用状況について審査を受け、日々業務の継続的改善に努め、当社の持続的な成長につなげています。



なお、現在ISO9001は2008年版、ISO14001は2004年版で認証取得していますが、2017年中に2015年版の移行審査を受け、認証取得する予定です。

海外での取り組み

北京路新大成景観舗装有限公司の紹介

2002年に中華人民共和国の北京市で設立された日本企業2社、中国企業2社からなる合弁会社です。「社会のために、より良い居住環境を創り出す」という企業理念に基づいて、地域の人と環境にやさしい路面を作ってきました。

今後は北京市外にも事業範囲を拡げつつ、環境に配慮した特殊舗装技術でインフラ整備事業に貢献していきます。



北京市前門の舗装工事の様子